



東京多摩プロバスニュース

第 67 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：広報委員会 2016. 7. 6.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

ふるさと多摩を若い人たちと共に

第 143 回 定例会

日 時：平成 28 年 5 月 11 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：関戸公民館第 2 学習室

お客様：多摩市教育委員会 石塚宇紀氏

出席者：24 名(会員数 32 名)

第 144 回 定例会(昼食会)

日 時：平成 28 年 6 月 1 日(水)正午より

場 所：旭館総本店聖蹟桜ヶ丘

出席者：25 名(会員数 32 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「会計の任期を終えて」

藤崎喬子 会計理事

■平成 25, 26, 27 年度(第 10～12 期)三年間、会計を務めさせて頂きました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

その時の議題に従い粛々と進む毎月の理事会は、私にとってついぞ久しく緊張感のあるものでした。新旧合同を含め四代にわたる三役の方々・委員長の方々の内外ともに多種多様な活動、知識の深さ、強い責任感を目の当たりにさせて頂けた事は得難い経験となりました。

これまで「無縁」としてきたパソコンの必要性に駆られ、先輩に付き添って貰い購入。そして教室通い。あの酷暑の夏、私はカタカナ用語の洪水に飲み込まれました。月末の一週間に作業が集中する為、議事録の分担を外して頂いた事は助かりました。

今後は、グループで活動ができる委員会でお役に立っていきたいと思っています。確定申告が簡単になった事、♪You Tube が楽しめる事、そんなおまけが嬉しいです。

■私が大事にしている日々の中に作り出す一人の時間、その一つが読書。

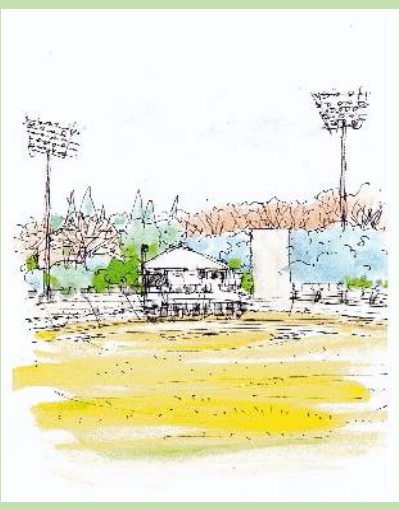
「宮沢賢治の詩にある『雨にも負けず風にも負けず』というのはこんな顔の人のいうのだろうか……この顔は……」で始まる相田みつお(奈良興福寺宝物殿・仏頭によせて)の詩を時々読み返す。恩師の深い眼差しを想いながら。

茨木のり子「自分の感受性くらい自分で守れバカ者よ」「行方不明の時間」「鶴」は特に好きです。

これは 1993 年 1 月 NHK 放送。初めて捉える事ができたという映像。たった数日間だけという一瞬の上昇気流を捉え、巻きあがり、峨々たるヒマラヤ山系を越え、渡るアネハヅルの羽ばたき。感動でした！それを、茨木のり子は映像にも勝る清冽な表現で「鶴」を著しました。

言葉とは心の思いを響かせて声に現すというけれど、心の思いを書いたり描けるって素敵です。十周年記念「多摩プロバスかるた」のスケッチも、読み札候補 222 句も本当に素晴らしいと思いました。

私も何かひとつでいいから表現できたらなあ……やはりムリだわ(涙)。



多摩プロバスかるたに詠まれた「一本杉公園」、やがて高校球児の球音が響く。

山田正司会員画

1. 幹事報告

稲田興幹事

1.1. 臨時理事会の開催

6月22日(水)新旧合同の臨時理事会を招集し、次年度の活動計画及び予算についての検討を実施。総会通知や議案書は6月29日(水)発送。

1.2. 東日本ブロック交流会の開催予定

9月5日(月)11時30分より八王子京王ホテルにおいて、東日本ブロックとしては初めての開催となる。

1.3. 熊本地震被害者に対する義援金

日本赤十字社を通じ、当クラブより3万円を寄付した。

1.4. クラブのパンフレット増刷

5月に改定版を発行したばかりのパンフレットは、6月に開催した多摩プロバスクラブフェア期間中、多量に配布され、増刷の必要がでてきた。部分的修正を加え、7月を目途に手配予定。

1.5. ワールドキャンパス多摩(WCT)への支援

当クラブが後援しているWCTより前回同様、かるた取り(海外の学生対象)の依頼があり、8月3日(水)の実施と併せて多摩プロバスかるた20セットの提供を受諾。

1.6. 第7回多摩地区3プロバスクラブ合同コンペ

5月20日(金)相武カントリー倶楽部で開催。各クラブとも高齢化のためか、体調不良などで当日を含めキャンセルが6名と多く、結局17名の参加にとどまった。日野8名、八王子7名、多摩2名。特筆すべきは、北村克彦会員が見事ホールインワンを達成!

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木泰弘委員長

1)第143回定例会 5月11日(水) 関戸公民館第2学習室
講話:「多摩第二小学校での発掘状況について」
講師:多摩市教育委員会 石塚宇紀氏

関連記事P3 参照

2)第144回定例会 6月1日(水) 旭館総本店聖蹟桜ヶ丘
昼食会と議事進行に引き続き、13期の新委員会毎に分かれて座談会を行い「各委員会の新年度の活動」に共通理解を深めた。

3)総会・定例会の予定

第13期総会・第145回定例会 7月6日(水)
関戸公民館第2学習室

第146回定例会 8月3日(水) 10:00~12:00
永山公民館視聴覚室

4)卓話の予定

7月 大澤亘会員 「富士山 大噴火」

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1)5月26日(木)~27日(金)「九十九里浜」へ研修・親睦旅行
「サンライズ九十九里」に宿泊した。ハーブガーデンと九

十九里浜散策、ガラス工房見学、海の駅「いわし資料館」のイワシ3,000匹回遊とイワシ漁の歴史を学ぶ。「海ほたる」では展示資料館で15kmの海底トンネルの構造を学ぶ。

関連記事P4 参照

2)6月25日(土)都立桜ヶ丘公園とんぼ広場にてホテル観賞。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

1)多摩ニュータウン学会の学会誌に山田正司会員の「多摩プロバスかるたづくりのまちづくり効用」の論文が7ページにわたって掲載された。かるたづくりの素晴らしい記録となる。

2)プロバスクラブフェアが実行委員会で計画した内容通りパネル展示を6月2日(木)~7日(火)、特別イベントを6月12日(日)に開催した。

関連記事P2、3 参照



地域奉仕委員会のメンバーの皆さん

2.4. 広報委員会

北村克彦委員長

1)プロバスニュース第67号を7月6日(水)に発行配布。

これからも会員各位の活動について、積極的な投稿をお願いします。

2)ホームページ更新7月20日に実施予定。

◇◇◇ プロバスクラブフェア開催 ◇◇◇

1. パネル展示

澤雄二実行委員長

13,700余、なんと“プロバスクラブフェアの展示会場に足を踏み入れた人”の数です。平成28年の6月、7年振りにプロバスクラブフェアが開かれた。去年10月、神谷真一会長が突然「フェア」を開きたいと提案。皆は驚き当惑したが、開催が決まるとさすがプロバス、一致団結して準備に入った。実行委員会は15回に及んだ。

パネル展示とイベント大会の2本立てとする。前回の来場者が500余名だったことから、多くの人に見てもらうために、会場を京王聖蹟桜ヶ丘SCの5階連絡ブリッジと決めた。幸い抽選に当たった。展示の内容は、プロバスとは何か、理念は、メンバーは、活動は、等々。サークル活動も紹介。12年間の実績を前面に打ち出し、認知度と好感度の上昇を企てた。廊下ギャラリーなので通り過ぎる人も少なくなかったが、多摩市の10人に1人がプロバスに触れたことになった。



次期の新委員会毎に座談会中

◇◇◇ プロバスクラブフェア開催(つづき) ◇◇◇

2. 特別イベント

澤雄二実行委員長

「多摩プロバスクラブフェア」のイベント大会は6月12日(日)、関戸公民館の大会議室と市民ロビーで開催された。統一テーマは「日本の伝統文化を体験してみよう」です。

■トップバッターは「プロバスかるた大会」、当クラブが作成した多摩唯一の郷土かるただ。歴史、文化、遺跡、自然、産業などが網羅さ



れた渾身の作。山田正司会員の名解説の後、老若男女チビッ子が入り混じって「かるた大会」を催した。奇声、嬌声、様々な声が部屋に響いた。

■午後一番は、7階の市民ロビーでヒーリングユニットのアルビレオコンサート。曲目は、「この広い野原いっぱい」「スカボロフェア」「イエスタデー」「夏の思い出」「川の流れるように」「見守っていてね」等々で最後は「365日の紙飛行機」。



会場とステージが一体となった大合唱も。中村昭夫会員の進行も素晴らしかった。岩佐玲子さんの歌声は、優しく透き通り、立見や8階の人達まで約100人を超える市民の心をまさに癒してくれた。

■“食後のひと時に一服どうぞ”と午後2時から、抹茶とお菓子を振舞った。茶道教授の小西加葉子会員の指導で、立礼でゆっくりと楽しんでもらった。おもてなしをしたのは、男性茶道の「佐助」でわがプロバス会員の有志の皆さんでした。



■掉尾を飾ったのは、滝川道子会員による「江戸しぐさを今に生かす」と題した講演会。狭い長屋に肩寄せ合う江戸時代の庶民たちが互いに思いやり、助け合い、よりよい人間関係を保つために生まれた江戸しぐさ、今の私達もこのしぐさの心をわが心として、人に優しい自分になろうと訴えた話に約60人の聴衆は心を奪われた。



◇◇◇ 講 話 ◇◇◇

多摩第二小学校での発掘状況について

多摩市教育委員会 石塚宇紀氏

多摩第二小学校校庭の発掘調査は、平成26年7月1日から9月26日にかけて約3ヶ月間にわたって行われました。調査面積は1,716㎡と、近年、多摩市で行われた調査の中では大規模な調査です。今回の調査では、縄文時代から近世までの幅広い時代の遺構が見つかっています。その中でも縄文時代、古墳時代、中世の遺構について紹介させていただきたいと思います。



縄文時代の遺構としては、早期の陥穴、中期の集石・堅穴建物跡・土抗墓などが見つかっています。陥穴は狩猟用の罠で、中には底に杭を立てるための穴が掘られているものがあります。今回の調査では4基ほど見つかり、早期にはこの一帯が狩猟の場であったことが分かります。集石は調理のための野外施設で、焼け石を利用して蒸し料理を作ったと考えられます。中期の建物跡は5軒見つかり、南側の道路拡幅時の調査で発見された同時期の建物跡を含めると14軒となり、大栗川流域でも比較的大規模な集落であったことが半明しました。遺構の配置を見ると中央部に空地があり、それを囲むように建物が配置されていることから、集落は馬蹄形のような建物配置だったと考えられます。土抗墓からは、副葬品として耳栓と呼ばれるピアスの一種が見つかりました。

古墳時代の特筆すべき遺構は、前期の堅穴建物跡と大溝、後期の土抗墓があります。堅穴建物は2棟見つかり、その北側に東西に走る一条の大溝があります。この大溝より北側は、大栗川へと下る急斜面であり、この大溝は集落の北限を区画する溝であったと考えられます。このような古墳時代前期の集落を廻る大きな溝は、都内や近隣の県でも類例がなく、大変珍しいものです。後期の土抗墓からは金銅製の耳環が出土しています。この耳環は有力者の墓に副葬品として入れられるもので、この土抗墓の被葬者も地域の有力者に関係のある人物だったのかもしれませんが、すぐ、南側で古墳群が調査されていることから、この土抗墓も上が削られてしまっただけで、古墳の一部であった可能性も考えられます。

中世の遺構では溝が見つかりました。この溝は、やはり区画のための溝であると考えられます。この溝からは馬の歯の骨が見つかり、祭祀行為が行われた跡だと考えられます。

以上のように、多摩第二小学校の調査では、この地に暮らした昔の人達の多様な痕跡が見つかり、地域の歴史の一端垣間見ることができました。



多摩第二小学校での発掘調査全景

九十九里浜

5月26日(木)～27日(金) 参加者18名で聖蹟桜が丘を



鈴木達夫会員

8時30分に出発、アクアライン「海ほたる」で東京湾の眺望を楽しみ、宿泊地九十九里浜のオーシャンビューリゾート「サンライズ九十九里」

へ正午に到着。昼食は地元の名物料理(いわし丼)を賞味。翌日は雨天の予報だったので予定を変更し、潮風の中で香り漂う「ハーブガーデン」を散策、広々とした敷地のハーブの香りを楽しみ、色々な季節の花々を眺めながら自然の美しさを鑑賞した。

ガラス工房では各種ガラスの展示を見学した後、九十九里浜の海岸をウォーキング、10数年前ジョギングしたゴールドコーストと同様な景観を感じる。豊かな自然と文化が雄大な九十九里浜は我が国の宝物である。

九十九里浜の臨海集落のことを納屋集落という。海岸まで漁具を運んでイワシ漁を行っていた。イワシ漁が盛大になるに伴い漁具が必要になったことと、イワシの鮮度が落ちない内に加工するために納屋を建てて作業所として利用した。

やがて漁夫と、家族が住み着き、網干場や干物台なども整備され漁業産業は効率化し、納屋が増えて納屋集落を形成し、地引網等の作業は村中の婦人総出の共同作業で行われ、一種の納屋集落固有の社会文化が形成された。

宿泊の夕食は海の幸(漁火コース)を賞味後、幹事の部屋での二次会が盛り上がった。

翌日は雨天だったが「イワシ資料館」でイワシ3000匹の回遊を見学し、イワシ漁の歴史を学ぶ。筋骨隆々の黒光りする裸の漁師の作業が印象的でした。各自イワシのお土産を購入後、ホテルで昼食。帰路の半ばには雨も上り「海ほたる」の資料館で海底トンネルと橋梁の構造を学び、バスの中では歌の合唱で盛り上がり、楽しい今期の研修・親睦旅行は終了。夕刻には聖蹟桜ヶ丘に帰着した。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

1. からまつ春の吟行

増山敏夫会員

5月7日(土)、石川春兎先生のお誘いで、からまつ春の吟行に俳句会から6名が参加、午前は各自歴史のまち国分寺(国分寺遺跡、お鷹の道、殿ヶ谷戸公園など)を散策、



殿ヶ谷戸公園の東屋では多くの参加者が鉢合わせ、苦吟の一時を過ごした。午後は近くの会館で句会、参加者は約50名。当日は由利雪二主宰の傘寿のお祝いも兼ね、

句会の後イタリアンレストランで祝賀会が行われ、楽しい1日でした。

以下は俳句会参加者の吟行句と自句自解。

サイレンの遠くに走り庭若葉

北村岳人

殿ヶ谷戸公園は、街の中にあって駅に近いがとても静かで、よく手入れされた庭の木々や芝の若葉の緑が目にも優しい。そんな気分浸っていると、遠くに救急車のサイレンが聞こえる。

太鼓打つ背筋や青葉風

倉賀野志水

府中大国魂神社のくらやみ祭り、日頃はさえないオッサンもこの日は年に一度の晴れ舞台。ドヤ顔で打つ太鼓も頼もしい。街道では大勢のギャラリーが宮出しを待っている。

自問する真姿の池木下闇

登坂爽風

鬱蒼と茂る豊かな緑の木陰に、ハケから湧き出る清水を

湛えた透明な池の面に写る我が姿。池の名に照らし思わず来し方行く末に思いを巡らす。混沌として思いは定まらず茫然と佇む。さっと緑を揺るがし風がよぎる。

旧邸の崖線にぎわえる白カルミア 方二丈の棚にひとひら藤の房

蓮池光花 蓮池光花

庭園めぐりは無理と根方に座ると肩に残花が降りて来る。万緑の古庭園は白カルミアの精気が満ちている。

木洩れ日をゆらす流れの苔清水

蓮池秋霜

殿ヶ谷戸の庭園には、武蔵野河岸段丘の一角から湧出した水の次郎弁天池がある。周囲の鬱葱とした樹木からの木洩れ日の光る流れに心洗われ、暫し佇む。

夏蝶の組んず解れつ柱跡

増山胡桃子

礎石だけが残る遺跡、太い柱の古代伽藍は想像するだけで楽しい。そんなことを知ってか丁度蝶が仲良く絡み舞っている。まるで柱跡をなぞる如くに。

2. 歌を楽しむ会

瀬尾日出男会員

毎回、発声練習で始まり、時には軽いストレッチで、歌を楽しむ会がスタート。中村昭夫リーダーの準備した曲を皆で精一杯歌います。日頃、声を出す機会が段々と少なくなり、リーダーからより一層大きく口をあげ、正しい姿勢で胸を張って、腹から声を出すように注意を受けながら歌を楽しんでいます。

最近は皆さんの諸事情の関係で、参加者が減る傾向にありますが、毎月第2又は第3金曜日は「歌を楽しむ時間」として、根気良く続けて楽しみましょう。

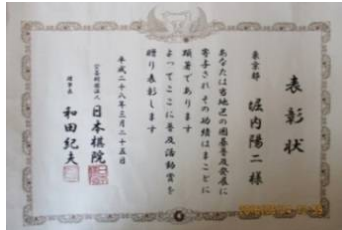
1. 私と囲碁

堀内陽二会員

京都の大学時代(昭和26年～30年)、囲碁研究会に熱中、以来私にとって囲碁は趣味以上のものとなりました。

昭和49年に都内から多摩市桜ヶ丘の住人になって間もなく桜ヶ丘囲碁クラブの会員になり、囲碁を通しての多くの方々とのお付き合いが始まりました。その後日本棋院の支部の「多摩市囲碁教室」の会員にもなりご縁がご縁を呼び多摩市囲碁連盟(昭和47年設立)の運営に参加することになりました。その後平成15年から平成25年まで10年間連盟の会長として多摩

市における囲碁文化の普及発展に努めました(現在は顧問)。平成18年頃文化庁の委嘱事業で財団法人伝統文化活性化国民協会からの呼びかけに応じ、「伝統文化子供囲碁教室」を立ち上げ5年間実施しました。平成19年には、当協会の平山郁夫会長から頂いた感謝状は良い記念です。その後、形は変わりましたが、子供囲碁教室は市内各地で続いています。



平成27年度普及活動賞

本年3月25日に、東京都で私を含め5名が「囲碁普及活動賞」として、表彰状と記念トロフィーを頂きました。

2. マナスル初登頂60周年の旅

西村政晃会員

昭和31年5月9日、日本山岳会の第3次登山隊によりわが国初めての8千メートル峰の初登頂が成し遂げられました。わが国は戦後11年しか経ってなく、復興途中でしたので、このニュースで映画が作られたり、記念切手が発行されたり、大いに沸いたことを憶えています。

私は中学2年生でしたが、登山にはまり、現在70代の多くの人がそうなった謂わば「マナスルチルドレン」でした。そのマナスル初登頂から今年で60年。



機上からのヒマラヤ展望

日本山岳会とネパール登山協会が共同で祝賀の記念行事を実施することになり、4月28日から5月2日までの5日間という忙しい旅に参加しました。

29日、双発のプロペラ機でマナスルをはじめとしたヒマラヤの高峰を機上から楽しみました。カトマンズ市内のラディソンホテルでは、ネパール政府の商工大臣も祝賀式典に参加。

翌日は、カトマンズ市内を5台の車でパレードしました。

街には、ヒマラヤ登山やトレッキングに関係の深いシェ



カトマンズ市内をパレード

ルバ族の人たちが沢山参加し、楽しそうでした。

最終日の5月1日は、ヒマラヤの好展望地カニの丘(2,073m)を往復。夜行便で帰国の途につきました。

3. 席持ちを二か所で

小西加葉子会員

5月5日、護国寺にて、春季煎茶会、黄檗東本流鳳松会が境内十席総てを本席として開催。私は、「茶櫃飾り」の手前で円成庵の席を務めた。お客様の出足も早く、終日楽しんでおられた。さてその三日後8日には、無理を承知で受けた多摩茶道連盟月釜を、関戸公民館茶室で行った。両日共に来て下さる茶友を慮り趣



円成庵の床飾り

向を変え「一煎一会」の心意気でおもてなしをした。その間、二茶席分の茶道具の出し入れ手入れに追われたが、なせば成るの達成感と共に、稽古、当日と協力してくれた社中があったればこそと、今、有難く思っている。

4. 幻の茶室見学

阪東照子会員

5月15日、関西から帰り疲れの取れぬ体で馳せ参じた。それは、千利休が大阪城内に建築されたとされる深二畳台目の茶室で、大阪夏の陣で焼失し幻となったのを、数寄屋建築家の中村昌生氏が、山上宗二の伝書による間取図を手掛かりに推定復元設計し「大庵」と名付けられた茶室見学!! 場所は軽井沢駅から車で五分の南ヶ丘倶楽部、茶苑(南晩)



の中にあり、私は偶然の出会いで、中央工学校の専務理事の矢代本部長から、一对一の説明が聞け、ゼミナー学生に返りルンルンの見学でした。隣接する苑内の立礼席、広間の茶会も緑に囲まれ清々しく、点心も美味、風雅な一日でした。今秋10月16日も茶会ある由。また紳士にお目もじ叶うやの期待もないまぜにし、是非参加したいと思っています。

ベトナム見聞録(3)

稲田興会員

最後に、旅の目的であった5つの世界遺産を紹介しよう。

(1) タン・ロン城



1010年～1804年間の各王朝跡。タンロンとは昇龍の意味で、ハノイの旧称。

これは瑞門と呼ばれる入口であるが、ここをくぐるとその奥にフランスが建てた建物がデーンとあるだけ、他には何も無い。遺産のほとんどはフランスに持ち出され、ベトナム人の手で発掘された遺産はこの中に一部展示されている。地下の遺構は現在発掘中。

この王朝が成立する10世紀までは古代中国の領土で、安南と呼ばれ、唐の時代、[阿倍仲麻呂](#)がこの地の総督として6年間統治を行ったとの情報を得た。右欄下[補足]参照

(2) フエの建造物



阮朝王宮門



カイディン帝廟(第12代皇帝)

阮(グエン)王朝(1802～1945)がタンロンよりこの地に遷都し、北京の紫禁城を手本にした王宮を造営。左図の門を入ると大和殿が正面にある。右図の廟も全くの中国様式で、造営当時の姿を今に留める。

(3) ハー・ロン湾



リアス式海岸で、石灰岩の一部が沈降し、永い時間をかけて浸食された姿。約2千の島々と22もの鍾乳洞があり、周辺ではイルカの姿も見られる。中国桂林の川下りに比べ景観に奥行きを感じ、千変万化長時間見ても、飽きることがない。ハーロンとは降龍の意味。

(4) 古都ホイアン



来遠橋(別称 日本橋)

この日本橋は中国人街と日本人街の間に日本人が架けた橋。当時の日本人街は現在中国人街となっている。夜は至る所ランタンが灯され、毎日お祭り気分が風情がある。

(5) ミー・ソン聖域



2～17世紀にかけて栄えたチャンパ王国の聖地。ヒンズー教の信仰でシバ神を祀る。王宮から数十キロ離れたジャングルの中。

残念ながらベトナム戦争の際、ベトナム軍が基地として使った為、米軍の攻撃でかなり破壊されてしまった。この遺跡から発掘された遺品は、日本の援助でダナン市内に建てられた博物館に保存されている。このような聖地遺跡はこれより南方500kmに亘り点々と分布しており、北方からの脅威に何度となく遷都した跡が窺えるが、それらの中でこのミーソンは約900年間もの間聖地として維持された。

[補足]: [阿倍仲麻呂](#)(698-770)は奈良時代、19歳で第9次遣唐使に同行、唐の都(長安:現在の西安)に留学。以来、科挙に合格するなどして玄宗皇帝に仕え、主に文学畑の役職を務めた。李白・王維等の唐詩人と親交が深かった。在唐36年、日本に帰国の許しを得て出航するも暴風雨に遭遇し安南に流され、2年後に長安に戻り、再び官途に就く。761年安南の総督に任ぜられ、6年間タンロンで政務を司った。後、長安に戻り3年、日本への帰国は適えられず、73歳の生涯を閉じた。『続日本記』に「わが朝の学生にして名を唐国にあげる者は、ただ大臣(吉備真備)及び朝衡(阿倍仲麻呂)の二人のみ」と賞されている。現在西安の興慶宮公園に立派な記念碑が建立されている。

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

5月誕生日を迎え
られました！



永田宗義会員

6月誕生日を迎え
られました！



北村克彦会員

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

今回のプロバスクラブフェアは新しくデパートでのパネル展示を加えた二本立てで企画され、当日の運営の素晴らしさもあり盛会裡に終了できた。これは澤実行委員長以下各担当会員の惜しめない努力のたまものと深く感謝する次第。

さて、今回送りだした67号ニュースは、古代の多摩地区のたたずまいを彷彿させる石塚宇紀氏の多摩第二小学校での古跡発掘のレポート、日本山岳会元副会長の西村会員による“マナスル初登頂60周年を記念するツアー”への参加報告、今回で三回にわたり投稿された稲田会員の詳細な“ベトナム見聞録”等々、重厚な内容で紙面を纏める事が出来た。

(広報委員 平田哲郎記)